

専門性を踏まえた対応せよ

教育こども委員会 井上浩議員が質問

井上浩議員は14日の教育こども委員会で、大阪

市が計画する不登校特例校と夜間学級の教員体制、コロナ禍の中での保育所の状況、保育士の処遇改善などについて質問しました。

井上氏が現在の大阪市の不登校児童生徒数をただしたのに対し、市教委は小学校1369人(在籍児童生徒に占める割合は1・19%)、中学校3306人(同6・48%)で、2015年度から小中学校共に増加し、全国と比較しても不登校率が高い状況が続いていると答弁しました。

井上氏は、子どもたちや家庭の様子を教員がよくつかむには、じっくり家庭訪問を行うことが欠かせないが、多忙化の中で困難になつていると指摘しました。

市教委は3カ所の教育支援センターによる支援に加え、2024年度に特例校を旧日東小学校(浪速区)に開校する」としました。

質問する井上議員=14日、大阪市議会教育こども委員会

井上氏は、不登校の生徒と夜間学級の生徒はそれぞれ異なる状況にあり、教育活動に求められる専門性は全く異なると強調。「夜間学級は残すべきだ。専門性を踏まえた対応を行い、子どもたちや保護者に向き合える環境こそ必要」と主張しました。

